



かき氷が飛びよつに売れた真夏日のフェスタ「ありがとうございます」の声も思わず大きく



# 若い力の熱い挑戦

「いちのせき高校生チャレンジフェスタ2007」は7月28日、狐禅寺のイオンスーパーセンター一関店駐車場で催されました。高校生たちが地域の活性化を目指して、自ら企画・運営に当たった同フェスタ。その熱い一日を追いきました。

市の「若者が主役の地域おこし事業」を活用し、昨年を引き続き開催されたフェスタは、大東高校商業研究部(部員6人)が中心となって5月上旬から準備を開始。同部顧問の川原佳訓(たけの)の指導と、きらめきサポートステーション一関の助言を得て、全体の企画や出店業者の募集などを進めました。併せて市内各高校へスタッフ募集を呼び掛け、同校と千厩高、一関工業高、一関一高の4校、20人の生徒により運営されました。千厩高から参加した5人のうち4人は、昨年に続いての参加となりました。

午前10時からのオープニングセレモニーでは、実行委員長の和賀彩佳(あやか)さん(大東高2年)が「今回のフェスタのテーマは『出会い』。今日のさまざまな出会いを大切にしながら、みんなで成功に向けて頑張りましょう」と

あいさつ。浅井市長が「実行委員の皆さんの心を一つに、若いパワー全開で大きな成果を期待します」と祝辞を述べ、フェスタがスタートしました。

オープニングセレモニーに続く先着プレゼントには長蛇の列用意した100ケースの卵はあつという間になくなり、幸先の良い滑り出しとなりました。

会場には、大東高校による焼き鳥、焼きそば、かき氷の販売やスパーボールすくいコーナーが設けられ、高校生らの「いらっしやいませ」「いかがですか」の元気な掛け声が響き渡りました。また、アンケート回答者によるお楽しみ抽選会なども行われ、上位の当選者が出るたびに本部テント前には歓声がわき上がりました。

物産販売コーナーでは、市内はもとより、陸前高田市や遠野市、石鳥谷町、大槌町などからフェスタの趣旨に賛同して参加した業者らによる新鮮な野菜や花加工食品などのテントが軒を連ねました。また、盛岡商業高校流通ビジネス科の4人が販売実習を兼ねて開いた「盛商マート」や「ほけっとの会」「一関世代にかける橋」の皆さんのフリーマーケット、東北ヘアモード学院の皆さんによる「つめの手入れ」「髪の毛のアップスタイル」などの無料体験コーナーなども開かれ、にぎわいを見せました。

会場中央に設けられたイベントスペースでは、藤沢高校有志14人による元気な「YOSAKOIソーラン」や、全国高校総合文化祭へ出発直前の大東高校鹿踊部による勇壮な「行山流鹿踊り」が友情出演。「祝い餅つき振舞隊」による楽しいもちつきやみちのくプロレスによるイベントプロレスなども行われて、フェスタを盛り上げました。

締めくくりは、昨年も行われて好評を博した「かき氷早食い大会」。挑戦者20人は、盛りだかき氷を「スタート」の掛け声と同時に口いっぱいにかき込み、「がんばれ」「もう少し」の声援が飛び交う中、冷たい戦いが熱く展開されました。

こうして、大勢の来場者が多

彩な内容を楽しみ、にぎやかに行われたフェスタは午後3時30分、その幕を閉じました。

最高気温32.1度。加えてアスファルトの地面から立ち上る熱むせ返るような暑さの中、高校生たちは、おそろいの紺色のポロシャツを汗まみれにしながら、朝の準備を皮切りに、販売やイベントの司会、裏方などそれぞれの役割を担い、会場狭しと一日中駆け回っていました。